

ガイドライン対照表

GRIスタンダード対照表

本レポートでは、「300:環境」のみを抜粋しています。

項目	指標	掲載ページ	CONTENTS
原材料			
301-1	使用原材料の重量または体積	P.34~35	マテリアルバランス
301-2	使用したリサイクル材料	-	情報が入手困難
301-3	再生利用された製品と梱包材	-	情報が入手困難
エネルギー			
302-1	組織内のエネルギー消費量	P.34~35	マテリアルバランス
302-2	組織外のエネルギー消費量	P.34~35	マテリアルバランス
302-3	エネルギー原単位	-	現時点では未集計
302-4	エネルギー消費量の削減	-	情報が入手困難
302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	-	情報が入手困難
水と廃水			
303-1	共有資源としての水との相互作用	P.23~24	水使用量の削減
303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	P.23~24	水使用量の削減
303-3	取水	P.23~24	水使用量の削減
		P.34~35	マテリアルバランス
303-4	排水	P.36	取水・排水・水の再利用量
		P.23~24	水使用量の削減
303-5	水消費	P.34~35	マテリアルバランス
		P.36	取水・排水・水の再利用量
		P.23~24	水使用量の削減
生物多様性			
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	-	該当せず
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	-	原料の採掘・採取・育成・製造を行っていないため、直接的に森林や生態系を破壊することはありません。生産拠点による影響については、大きさ・頻度ともに大きいことは確認されていません。
304-3	生息地の保護・復元	ウェブサイト	緑の質の向上へ～事業所の生物多様性保全 https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/environment/naturalsymbiosis/biodiversity_preservation/index.html
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	ウェブサイト	生きもの調査レポート https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/environment/naturalsymbiosis/report/index.html
大気への排出			
305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	P.36	バリューチェーンでの温室効果ガス排出量
305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	P.36	バリューチェーンでの温室効果ガス排出量
305-3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	P.36	バリューチェーンでの温室効果ガス排出量
305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	-	現時点では未集計
305-5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	P.20~21	生産時のCO ₂ 排出削減
305-6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	P.34~35	マテリアルバランス
305-7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	P.34~35	マテリアルバランス
廃棄物			
306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	P.22	廃棄物最終処分率の低減
		P.34~35	マテリアルバランス
		P.22	廃棄物最終処分率の低減
306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	P.13	環境事故の防止
		ウェブサイト	PCB関連情報 https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/environment/disclosure/pcb/index.html
306-3	発生した廃棄物	P.34~35	マテリアルバランス
306-4	処分されなかった廃棄物	P.22	廃棄物最終処分率の低減
306-5	処分された廃棄物	P.34~35	マテリアルバランス
環境コンプライアンス			
307-1	環境法規制の違反	-	該当せず
サプライヤーの環境面のアセスメント			
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	-	機密保持上の制約
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	-	三菱電機は、環境マネジメントシステム認証取得状況や法令遵守状況などが、特定の基準に達したサプライヤー様を認定することにより、環境リスクを低減させています。

TCFD提言で推奨される開示内容の開示状況

ガバナンス:気候関連のリスク及び機会に係る組織のガバナンスを開示する。	
a) 気候関連のリスクと機会についての、当該組織取締役会による監視体制を説明する。	P.10 マネジメント体制
b) 気候関連のリスクと機会を評価・管理する上での経営の役割を説明する。	P.10 マネジメント体制
戦略:気候関連のリスク及び機会がもたらす組織のビジネス・戦略・財務計画への実際の及び潜在的な影響を、そのような情報が重大な場合は、開示する。	
a) 当該組織が識別した、短期・中期・長期の気候関連のリスクと機会を説明する。	P.8 気候関連のリスクと三菱電機グループの取組 P.9 気候関連の機会と三菱電機グループの取組
b) 気候関連のリスクと機会が当該組織のビジネス、戦略及び財務計画(ファイナンシャルプランニング)に及ぼす影響を説明する。	P.7 戦略
c) ビジネス、戦略及び財務計画に対する2℃シナリオなどのさまざまなシナリオ下の影響を説明する。	P.7 戦略
リスク管理:気候関連リスクについて、組織がどのように識別・評価・管理しているかについて開示する。	
a) 当該組織が気候関連リスクを識別及び評価するプロセスを説明する。	P.10 リスク及び機会の識別・評価・管理と活動への反映
b) 当該組織が気候関連リスクを管理するプロセスを説明する。	P.10 リスク及び機会の識別・評価・管理と活動への反映
c) 当該組織が気候関連リスクを識別・評価及び管理するプロセスが、組織の総合的なリスク管理にどのように統合されているかを説明する。	P.10 リスク及び機会の識別・評価・管理と活動への反映
指標と目標:気候関連のリスク及び機会を評価・管理する際に使用する指標と目標を、そのような情報が重要な場合は、開示する。	
a) 自らの戦略とリスク管理プロセスに即して、気候関連のリスクと機会を評価するために用いる指標を開示する。	P.8 シナリオ分析を通じた気候関連のリスクと機会の評価概要
b) Scope 1、Scope 2及び、当てはまる場合はScope 3の温室効果ガス(GHG)排出量と関連リスクについて説明する。	P.36 バリューチェーンでの温室効果ガス排出量
c) 気候関連リスクと機会を管理するために用いる目標、及び目標に対する実績を開示する。	P.11 気候変動に関する指標と目標 P.34 環境データ